

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和2年7月9日	評価結果市町村受理日	令和2年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2278200155-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2278200155-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 7月 17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなが家族のような、アットホームな雰囲気、笑顔のある居心地の良い居場所創りを心掛けています。同じ建物内にある地域密着型小規模多機能の利用者様との交流をしたり、年間を通し、地域の方とも交流が出来る場を設け、地域の一員として飽きの来ない生活の工夫をしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

こちらの事業所は複合施設なのでデイサービスや小規模多機能の利用者と交流の機会がある。利用者には食事のペースや日中の過ごし方等利用者のペースを大切にして、無理強いせずゆったりと暮らしてもらっているため利用者の表情が穏やかであった。日頃より地域の住民が協力的で、町内の行事や運営推進会議や防災訓練にも熱心に関わってくれている。事業所も毎月のお便りを隣接する2地区に届けており、回覧してもらっている。職員の離職率が低く、意見も言いやすい環境なので、働きやすいと職員ヒヤリングで確認できた。また、外国人の職員が複数いて、今まではコミュニケーションや漢字の習得などで苦労をしたこともあったが、その職員の国民性が良い方に作用することもあり、他の職員と意見交換をしながら、特性を活かし介護を行なっている。食事は専門の職員が手作りしており、職員も全員同じものを食べ、味や季節感などが利用者との会話につながっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来る様になっている。 各ユニットに掲示してあるものは、ふりがなをふり、外国人職員にもわかりやすいようにしてある。	玄関、各リビング、タイムカードの付近に理念が掲示してある。申し送りが出た意見が理念に基いているか確認をしながら業務にあたっている。理念が難しいので外国人の職員には、「毎日、怪我がなく、楽しく過ごせるように。」と説明している。運営推進会議の議事録に毎回理念を載せている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中に、同地区のこども会、敬老会、女性の会との交流を設けている。また、毎月施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。	地域の住民は施設の事を気にかけてもらっており、地域の行事や事業所のお祭り、子ども会の行事等で交流している。施設の新聞は70部位を所属地区と隣の地区に届け、回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議や地域交流の時に認知症について話をしたり、相談にのったりして理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流が運営推進会議として認められなくなり、地域の方の他にボランティアに来て下さる方にも参加して頂き、現状報告をし、意見を頂いたり相談、質問などを受け、そこでの意見をサービス向上に活かせるようにしている。	昨年ステップにあがったため、運営推進会議のあり方を検討した。地域交流で地域の人に来てくれる時に運営推進会議にも参加してもらえるように頼んで開催した。その結果貴重な意見をもらうことができ、今後の運営に活かしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事や会議などに、市担当者の参加要請をしています。現状やサービス内容について相談し、意見や助言を頂いたりしている。	運営推進会議の議事録を持参したり、わからないことを質問に言ったりと市担当者と顔を合わせる機会は多く作っている。地域包括支援センターとは日頃から交流があり、時々立ち寄りしてもらっている。高校の福祉課の実習や中学高校生の福祉体験を受け入れている。施設長は医師会関係の委員をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない事を理解し、身体拘束をしないケアをしている。	マニュアルが整備されている。外国人の職員には難しいので項目に分けて説明をしている。委員会は3ヶ月に1度行われており、マニュアルと資料は全職員に渡している。研修は定期的に行っていて、内容は現状に即すように柔軟に設定している。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員との個別の話し合いや、ミーティングで意見交換をして、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制を取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めています。また、質問があった時には、理解し、納得して頂けるよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加のお誘いや、事業所入口に意見箱の設置をしています。また、面会時や電話などで意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。	よく訪問してくれる家族には、訪問の時に意見を聞くようにしている。遠方に暮らしている家族にはケアマネージャーが電話をかけて意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言いやすい雰囲気を中心掛け、管理者から代表者へ報告をし、職員の意見や提案を共有し、反映できるよう努めている。	日頃から意見が言いやすい環境で、管理者は職員の様子や顔色を見て言葉掛けをして相談にのっている。希望休はとりやすく、コミュニケーションは取れていると職員ヒヤリングで確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりをよく理解して、話を聞いて相談に乗ったり、個々に合わせた対応をしてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けたい研修などがあれば、費用を負担してくれたり、行きやすい勤務体制を整えるよう管理者に指示を出したりして、研修に行きやすい体制を創ってくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	同業者主催の研修参加をしたり、電話で相互の状況などを話し合ったり、情報交換をし、サービスの質の向上できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、寄り添い、不安な事や困っていることなどを聞き取ったり、読み取ったりして安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前段階において、家族と本人の意向、要望をよく聞き取り、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合った支援を提案、提供をし、本人、家族が必要とするサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を創り、同じ食事をしながら寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠である事を理解してもらい、家族と施設は「チーム」として考えている事を話し、お互いの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から昔懐かしの話を聞いたりして、馴染みの人や場所を思い出してもらったり、馴染みのお店などに行き関係が途切れないように努めている。しかし現在、コロナウイルスにより外出を控えていたり、面会制限を行っている為十分な支援にはなっていない。	併設のデイサービス利用者の知人や以前利用していた小規模多機能の職員が時々訪ねてくる事を楽しみにしている。コロナ前は家族が面会に来て外出したり、利用者の誕生日に職員と利用者の行きたい所に出かける支援をしていた。現在は利用者の過去の体験や記憶を話題にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談があればいつでも相談に乗れる事を伝え、いつでも相談に対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取り把握できるよう努めている。また、会話が困難な入居者様の場合には、表情や動きを観察して、気持ちをくみ取れるように努めている。	利用者への声かけはまめに行い、日常の中で要望を聞き出したり、利用者の表情を感じ取って本人本位に支援している。得た情報は申し送りノートで共有している。また、職員はユニットの枠を超えて利用者の事を理解しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりして、一人一人の入居前の暮らしやサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。	家族や本人の意向を聞き、看護師、協力医の意見も取り入れて、職員が利用者の日常の様子を記入した申し送りノートを参考にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動、気になる様子など支援に必要なキーワードは記録し、全員で共有し、実践や計画見直しに活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所で買い物をしたり、外食をすることがあります。また、馴染みの場所を散歩したり、近隣の公園に散歩に出かけるなど、暮らしを楽しめるような支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関を希望される方が多いですが、今までのかかりつけ医を希望される場合にも、病院と連携を取りながら支援している。	ほとんどの利用者は入居時に協力医の受診を希望される。利用者の状況により往診か通院か選択している。通院は交通費を家族に負担してもらってほぼ職員が対応している。入居前のかかりつけ医と協力医を併用している利用者がいる。協力医は365日24時間対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師といつでも連絡が取れる体制になっている。また、協力医ともいつでも連絡が取れるようになっており、指示がもらえる体制に有、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態把握をし、入院時にはスムーズな情報提供ができるよう努めている。入院中の情報がスムーズに入るよう日頃から病院のケースワーカーと連絡を取り関係創りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態に変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、主治医にも立ち会ってもらい、今後の方針について再度話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明し、同意書をとっている。重度化した場合は医師が家族に状況を説明し、今後の方針を職員も加わり話し合いを行う。直近5年は看取り支援は行っていないが、いつでも支援できる心構えを職員は持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていませんが、職員の入れ替わりの様子で行うようになっている。2018年にAED講習を行った。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回防災訓練を行っている。消防署と地域の防災委員の方に来ていただきアドバイスをいただきます。ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練もしています。	避難訓練では夜間想定も行い、消防署が立ち会い、アドバイスをくれる。地域の住民が訓練に立ち会って、気がついたことを述べてくれる。備蓄は飲料水や食料が3日分あり、リストを作って、2階に保管しており、ライフジャケットやヘルメットは人数分準備されている。避難用のシューターも設置されている。	職員ヒヤリングで、定期的に防災訓練を行い、地域住民の協力も取り付けているとのことであるが、津波対策や停電対策は不安があるとのことであった。行政や会社と連携して安心できるような対策の策定に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援をすることで人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	利用者に対して丁寧であるがよそよそしくないように、一人一人に合わせた声かけを行い、言葉づかいに気をつけて支援している。スピーチロックの研修は行われている。「サンシティあらい新聞」は掲載する写真について家族に許可を得て、町内に回覧してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせて、オープンクエストとクローズドクエストを使い分け、出来る限り自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それぞれのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただいており、散髪、顔剃りをし、身だしなみを整え、清潔感を保ち過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が食事の支度をし、職員が同じ食卓で同じ物を食し、食事が楽しめるよう努めている。	食材は調理専門の職員が地元のスーパーマーケットやネットスーパーに注文し、配達してもらい、職員も利用者と同じものを同じテーブルで食べている。誕生日や敬老の日等のイベントの時はお弁当やお寿司、お刺身等を出前してもらい、楽しんでいる。夏休みには近所の小学生とおやつデコレーションをして触れ合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、必要量が摂取できているかの確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に出来ない方もおり、夕食後に重点を置きほとんどの入居者様が介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導見守りにて立てる方は日中トイレで排泄の支援をしている。	水分量と排泄の記録をとって、利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレへの声かけや誘導の支援をしている。布パンツを使用している利用者が3人おり、長時間使用できるよう支援している。便秘がちな利用者は医師や看護師に相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良いメニューを心掛け、体操や歩行運動などを行っている。また、なるべく薬に頼らないように、乳酸菌飲料を摂取してもらう等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中に入浴になります。ゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでもらえるように支援している。	3日に1度、午前中に入浴をしてもらっている。入浴剤は使用せず、ゆず湯、菖蒲湯は季節を感じてもらうように使用している。重度の利用者にも湯船に浸かる気持ちよさを味わってもらえるように職員が2人がかりで入浴してもらうことも多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をして頂いたり、夜もそれぞれの時間で入床して頂き、居室の温度が一年を通し快適に過ごせる温度設定をし、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬に変更があった時には申し送り、症状の変化などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、嗜好品を買ったり、外に出る事で気分転換が出来るよう支援している。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望通りに出かける事が出来ない時は、希望に沿って外出を計画して出来る限り出かけられるように支援している。	利用者の高齢化で外出も難しい状況であるが、体調や様子を見ながら、ベランダで外気浴を行ったり、事業所の周りや近くの公園に散歩するように努めている。誕生日には利用者の行きたい所へ職員と出かける支援をしているが、今はコロナのため休止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理をしているが、本人の希望があり、家族の同意の下、同意の額を本人が所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分で電話が掛けれる人がいないが、希望があれば、見守りの下、電話を掛けたり、こちらで電話をかけ、電話口に出てもらい話ができるよう支援する体制にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開けることで、光や風を感じてもらっている。また、季節に合わせた壁の装飾を心掛け、フロア内が華やかで居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	リビングの天井が高く、天窓もあるので曇りの日でも明るく、換気が行える。利用者の作品と共に制作が得意な職員が作った作品がいろいろな所に彩りを添え、華やかになっている。お金をかけず職員の創意工夫でいろいろなものを手作りして整理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を2ユニット一緒に行ったり、時間を共有して楽しく過ごせるよう支援している。基本的には自由に過ごしてもらい、何事も無理強いはいしない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震など災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く、安心して過ごせるよう支援している。	奥行きのある棚に家族の写真が飾ってある部屋がある。クローゼットは収納力があり、衣類や冬の布団が納めてある。床に直接布団を敷いている部屋もあるが、部屋の中を移動する時につまずかないように工夫して動線を確保してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように、障害物をなるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和2年7月9日	評価結果市町村受理日	令和2年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 7月 17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなが家族のような、アットホームな雰囲気、笑顔のある居心地の良い居場所創りを心掛けています。同じ建物内にある地域密着型小規模多機能の利用者様との交流をしたり、年間を通し、地域の方とも交流が出来る場を設け、地域の一員として飽きの来ない生活の工夫をしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来る様になっている。 各ユニットに掲示してあるものは、ふりがなをふり、外国人職員にもわかりやすいようにしてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中に、同地区のこども会、敬老会、女性の会との交流を設けている。また、毎月施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議や地域交流の時に認知症について話をしたり、相談にのったりして理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流が運営推進会議として認められなくなり、地域の方の他にボランティアに来て下さる方にも参加して頂き、現状報告をし、意見を頂いたり相談、質問を受け、そこでの意見をサービス向上に活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事や会議などに、市担当者の参加要請をしています。現状やサービス内容について相談し、意見や助言を頂いたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない事を理解し、身体拘束をしないケアをしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員との個別の話し合いや、ミーティングで意見交換をして、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制を取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めています。また、質問があった時には、理解し、納得して頂けるよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加のお誘いや、事業所入口に意見箱の設置をしています。また、面会時や電話などで意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言いやすい雰囲気を中心掛け、管理者から代表者へ報告をし、職員の意見や提案を共有し、反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりをよく理解して、話を聞いて相談に乗ったり、個々に合わせた対応をしてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けた研修などがあれば、費用を負担してくれたり、行きやすい勤務体制を整えるよう管理者に指示を出したりして、研修に行きやすい体制を創ってくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	同業者主催の研修参加をしたり、電話で相互の状況などを話し合ったり、情報交換をし、サービスの質の向上できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、寄り添い、不安な事や困っていることなどを聞き取ったり、読み取ったりして安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前段階において、家族と本人の意向、要望をよく聞き取り、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合った支援を提案、提供をし、本人、家族が必要とするサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を創り、同じ食事をしながら寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠である事を理解してもらい、家族と施設は「チーム」として考えている事を話し、お互いの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から昔懐かしの話を聞いたりして、馴染みの人や場所を思い出してもらったり、馴染みのお店などに行き関係が途切れないように努めている。しかし現在、コロナウイルスにより外出を抑えていたり、面会制限を行っている為十分な支援にはなっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談があればいつでも相談に乗れる事を伝え、いつでも相談に対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取り把握できるよう努めている。また、会話が困難な入居者様の場合には、表情や動きを観察して、気持ちをくみ取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりして、一人一人の入居前の暮らしやサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動、気になる様子など支援に必要なキーワードは記録し、全員で共有し、実践や計画見直しに活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所で買い物をしたり、外食をすることがあります。また、馴染みの場所を散歩したり、近隣の公園に散歩に出かけるなど、暮らしを楽しめるような支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関を希望される方が多いですが、今までのかかりつけ医を希望される場合にも、病院と連携を取りながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師といつでも連絡が取れる体制になっている。また、協力医ともいつでも連絡が取れるようになっており、指示がもらえる体制に有、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態把握をし、入院時にはスムーズな情報提供ができるよう努めている。入院中の情報がスムーズに入るよう日頃から病院のケースワーカーと連絡を取り関係創りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態に変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、主治医にも立ち会ってもらい、今後の方針について再度話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていませんが、職員の入れ替わりの様子で行うようになっている。2018年にAED講習を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回防災訓練を行っている。消防署と地域の防災委員の方に来ていただきアドバイスをいただきます。ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練もしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援をすることで人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせて、オープンクエストとクローズドクエストを使い分け、出来る限り自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それぞれのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただき、散髪、顔剃りをし、身だしなみを整え、清潔感を保ち過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が食事の支度をし、職員が同じ食卓で同じ物を食し、食事が楽しめるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、必要量が摂取できているかの確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に出来ない方もおり、夕食後に重点を置きほとんどの入居者様が介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導見守りにて立てる方は日中トイレで排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良いメニューを心掛け、体操や歩行運動などを行っている。また、なるべく薬に頼らないように、乳酸菌飲料を摂取してもらう等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中の中の入浴になります。ゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでもらえるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をして頂いたり、夜もそれぞれの時間で入床して頂き、居室の温度が一年を通し快適に過ごせる温度設定をし、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬に変更があった時には申し送り、症状の変化などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、嗜好品を買ったり、外に出る事で気分転換が出来るよう支援している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望通りに出かける事が出来ない時は、希望に沿って外出を計画して出来る限り出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理をしているが、本人の希望があり、家族の同意の下、同意の額を本人が所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分で電話が掛けれる人がいないが、希望があれば、見守りの下、電話を掛けたり、こちらで電話をかけ、電話口に出てもらい話ができるよう支援する体制にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窗を開けることで、光や風を感じてもらっている。また、季節に合わせた壁の装飾を心掛け、フロア内が華やかで居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を2ユニット一緒に行ったり、時間を共有して楽しく過ごせるよう支援している。基本的には自由に過ごしてもらい、何事も無理強いはいしない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震など災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く、安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように、障害物をなるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・火災・津波・夜間想定 of 訓練をランダムに年間2回行っており、地域の方の協力も得ているが、職員の中には津波や停電時の不安が大きい者もいる。停電用に非常用ランプはあるが、自家発電がないため冬場、夏場の冷暖房に対する備えが乏しい。	災害から起こる停電に、入居者様も職員も不安がある中でも少しでも快適に過ごせるような備えをする。	湖西市に発電機の貸し出しがあるのか、購入する場合の補助などがあるのか確認する。会社と冬場、夏場の冷暖房に対する備えをどうするか話し合う。	4ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。